

恵みと真理のニュース



2016 年 7 月の五次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私の家族の魂が恵まれているように、すべての面で恵まれ、健康であるように助けてくださる神様の恵みに感謝します

私が小学校の 6 年生の時、父が借金の保証を立ったのが問題になりその時から家運が落ち目になり始めました。親がもっと熱心に私たちのため働きましたが経済状況は良くなりなくして私の 6 人兄弟は親に感謝して熱心に勉強しました。そんな状況で急に両親が相次ぐなくなりました。上の兄と姉がいましたが姉は結婚をして私が少女家長になり兄弟 3 人を責任を負えました。私は兄弟のため女軍になりたいと思った夢をあきらめて朝から夜まで働いて家に帰ってからは家事をしました。

そうするうちに良い男がいるが紹介するので一回会ってみよう誘いました。何回も断りましたが経済的に余裕もあって性品も良いから強く誘いました。縁だったのかお互いに気に入って結婚しました。私が 25 歳の時でした。ソウルで生まれ生活して田舎に来るとわからない生活で大変でした。隣の家のことになぜそんなに熱心を持つのか私の言葉にも気がつかなければならなかったです。舅が多く土地を買って亡くなったのでお金持ちだとうわさがあったからです。しかし、お金持ちという噂と実際の生活は全く違いました。お金持ちだと思って結婚したらパンも買えないくらいお金がなかったです。そして、舅姑がいなくてその代わり村で大きい姑のような方がいらっしたので嫁いびりもありました。旦那も活動的な性格で友達が好きで夜屋さえも外で遊んで私の話を耳に傾けなかったです。

1994 年二番目の子を産みました。長女が娘で二番目は息子です。大事な娘、息子を育てながら日々を大変な生活を耐えました。人生が苦しくて一人で泣いてたくさん食べてしまいました。ストレスで体重が結婚の前まで 20kg が増えました。少女の頃と見違えるほど変わった私の身の上を歎きました。

家計のため夢をやめた私は子供の未来のため二番目の子が小学校 2 年生、長女が 6 年生が終わるこ

ろ決断して勉強ため学校を転校させました。そのごろ二番目の子が友達について恵みと真理教会の夏の聖書学校に行ってから私も教会とキリストの信仰に関心を持つようになりました。伝道した友達の母が私の家によく来て農業を助けてくださいながら伝道しました。はじめは関心がなかったですが親しくなってもう断ることができなくなって一回恵みと真理教会に行きました。そのときデンエン聖殿で決信をしてイエス様を信じ始めました。ある日は当会長の牧師を近く会いたくて区域長に話したら私をスワン聖殿の礼拝に連れて行きました。教会がとても大きかったです。礼拝の時間に遅くなって説教の時に聖殿に入りました。御言葉に大きい恵みを受け心が感動されました。説教を聞き賛美して救いの喜びと神様に対する信頼が満ち涙を流しました。聖霊様は疲れて痛かった私の心と体を癒してくださいる感じで他の生徒も気にしなくて意識もしなくて自分も知らずにたくさん泣きました。区域長がもういい加減に泣きなさいとしたが涙は止まらなかったです。礼拝が終わって心が開かれ重たかった荷物を捨てたように胸がすっとしました。生まれ変わった生徒になった後、私の人生が完全に変わりました。礼拝を捧げることが一番楽しいことになり、生活の様々な問題をもって祈りました。恨んで不平する代わり感謝して主の中で健康と幸福を享受して希望の中で熱心に祈りました。神様は希望を与えてくださりその祈りに答えてくださって持っているお金が少なくとも商売をすることが出来ました。神様の恵みで商売がうまくいきました。小学校の 5 年生になるまでピアノを習った娘がある日、急にピアノを専攻したいとして私を驚かせました。しかし、娘の決心が強くして私は娘と神様に祈りながら入試を準備しました。神様の摂理で助けてくださった娘は大学に進学しました。入試に必ず必要な曲だけ練習しピアノを弾いたので大学の 1 学年生の時大変でした。しかし、忍耐しながら神様がくださった才能を持って努力して 2 年になると優秀な成績を表して 4 年生の

時まで奨学金を受けるようになりました。神様が共にして守ってくださるからできないことがないと思います。神様に感謝しました。二番目の息子も勉強が目標とするほど熱心して中学校 1 年生と 2 年生まで 1 等を逃したことがないです。3 年生になって思春期が来ると勉強するのが大変で集中力が落ちました。目標した高等学校が自律的な私立高校で変えて第 1 期の新入生を先発するようになって今までの成績の上限線が高くなりました。それで心配をして切迫した心で神様に祈りながら入試をしました。が、ギリギリ合格しました。合格した後は反転が起きて 7 百人の中で数学科目 1 等して優秀な組に編成されました。これも神様の恵みであり感謝します。息子は大学に入って自分が願っていた専攻を勉強して姉と教会で聖歌隊で熱心に奉仕してから軍隊に入隊し国防の義務をしています。息子が入隊する前に手術を受けたから私は心配になって神様に祈りました。息子はゾンドのナンオンの軍隊で通信行政兵として勤務しています。私が心配しなくて毎日をやりがいある生活を送っていると伝えて来ます。この前は一等兵であることにも分隊長となり指揮官になり指揮官と後兵士に信頼を受け任務をよく担えている話も伝えて来ました。息子が誇らしくて神様に感謝して軍隊に行っても相変わらずイエス様を信じ委ね熱心に礼拝を捧げていることです。すべてが感謝です。

まず、私の魂が恵まれているように、すべての面で恵まれ、健康であるように助けてくださる神様の恵みに感謝し賛美します。家庭の福音化のため私のすべての家族が神様の御言葉を愛し礼拝する福と楽しさを享受し主の中で与えてくださった恵みを自慢しながら生きるようにしてくださいる感謝します。神様の愛と恵みに感謝し全ての栄光を捧げます。二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」(使徒言行録 16:31) ハレルヤ！



【信仰コラム】

聖徒達のかっこいい行動

”信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわったために、くずれおちた。信仰によって、遊女ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに迎えたので、...” (ヘブリ書 11:30、31)

聖徒達から見られるかっこいい行動は神様と神様の口約束に対する信仰と結び付けられています。ヘブリ書 11 章に登場する旧約時代信仰の偉人の中でとても対照的な身分を持った二人に関する記録を調べてみることで手本に扱いながら教訓を得ましょう。

まず、ヨシュアについて調べてみます。

本文の 30 節に”信仰によって、エリコの城壁は、七日にわたってまわったために、くずれおちた。”と記録されています。イスラエルの子孫を導いてカナンのに進入したヨシュアがエリコを陥落させる方途を調べるために城に近づいた時でした。エホバの軍隊長官が現れてヨシュアに”そして七日目には七度町を巡り、祭司たちはラッパを吹き鳴らさなければならない。そして祭司たちが雄羊の角を長く吹き鳴らし、そのラッパの音が、あなたがたに聞える時、民はみな大声に呼ばわり、叫ばなければならない。そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができる。”と指示しました。ヨシュアは直ちに祭司長達を呼んでエホバの軍隊長官の言葉通りに指示し、民達にもその通りに命令しました。そうしてエリコは崩れ落ち、士気が充電されたイスラエルの兵士と民が入り簡単に城を占領しました。エリコの陥落に関連された記事は信仰によって行うことに対して教訓を与えてくれます。

エリコ城を陥落することに必要な要素は三つです。一つ、神様の思いに従って行いました。二つ、神様が指示なさった戦術は奇想天外であったがヨシュアは神様の指示に従いました。三つ、民達が指導者を信頼しました。私達が信仰で行う過程でも克服すべきことがあります。一、経験と常識、理性が出る否定的な考えを制圧すべきです。二、神様のお言葉に合わない否定的な言葉を口に出してはいけません。そして”神様、私の味方になって私を手伝ってください。”とお祈りをする前に私達が先に考えてみるべきことは、自分が神様の味方になっているかということです。

次は、遊女ラハブを調べてみます。

本文の 31 節に”信仰によって、遊女ラハブは、探りにきた者たちをおだやかに迎えたので、不従順な者どもと一緒に滅びることはなかった。”と記録されています。ヨシュアが送った二人の回し者がエリコに入って遊女ラハブが運営する宿屋に宿泊しました。この報告を受けたエリコの王が兵士達を送りラハブの家を搜索したがラハブは回し者を隠し、兵士達をはぐらかしました。そして、回し者達に次のように懇請しました。”主がこの地をあなたがたに賜わったことをわたしは知っています。あなたがたの神、主は上の天にも、下の地にも、神でいらせられるからです。それで、どうか、わたしがあなたがたを親切に扱ったように、あなたがたも、わたしの父の家を親切に扱われることをいま主をさして誓い、確かなしるしをください。そしてわたしの父母、兄弟、姉妹およびすべて彼らに属するものを生きながらえさせ、わたしたちの命を救って、死を免れさせてください。”

ラハブは約束を受けて回し者達が城を脱出するように手伝いました。数日が経てエリコが崩れ落ちながら瞬時に城が修羅場になりました。しかし、驚くべきにラハブの家が位置した所の城壁は崩れ落ちませんでした。ヨシュアはその地を探った二人に指示してラハブと父母、兄弟、姉妹そして、彼に属した全てのものをイスラエル陣の外まで導き出した後にエリコ城を燃やしました。エリコ城の人々が全て殺される時に遊女ラハブの両親と兄弟達の家族を無事でした。ラハブが回し者に親切に扱った理由と根拠は信仰であり、これを分析してみると次のようであります。

一つ、ラハブはエホバ神様の対する正確な知識を持ちました。二つ、ラハブは彼が得た知識を信仰に発展させました。三つ、ラハブは信仰を行動に移しました。そして、自分の両親と兄弟達、その家族を全て集め救いを得るようにしました。ラハブは異邦人であり卑しい職業を持った女性です。にもかかわらず、エリコ城の陥落に関する記録でイスラエルの指導者ヨシュアと共に信仰によって行った人の手本として搭載されました。救いは血統や身分ではなく信仰によって得ます。聖書に掲示された救い主を信じる信仰を持つべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

風波の原因把握と適切な対応策



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

世の中が広い広い大海ならすべての人生は船に乗って航海する人のようです。海には多様な風波がいつもあるように人間の生には多様な問題があるものと決まっています。風波がおこらない海を期待するより風波の性格が分かる知恵と適切に対応する方法を習得しなければなりません。今日は聖書に記録された風波に会った人々に関するお話で聖徒が経験するようになる多くの種類の風波に対してそしてその原因と適切な対応策に対してよく見ます。

第一は、神様が任せた仕事を拒否するとか忌避する人が経験するようになる風波があります。

神様が予言者ヨナにニヌウェに行って神様がその城邑を滅亡させようと決心したと悔い改めを促すように指示しました。これは光栄で珍しい使命でした。しかしヨナは神様の顔を避けてヨバに下がってタシスに行く船に上がりました。その船はいつ間には順風に帆をつけて海の上をすべって行きました。ところで神様が大風を海の上に降ると船は破船の危機に直面しました。風波がもっと荒くなるので船員と船客が集まってこの災いが誰からよって来たのか分かるために福引きをする事にしました。くじを抜いたらヨナがかかりました。ヨナは自分が神様の顔を避けて行っているという事実を言いながら自分を海に投げなさいと言いました。彼らは万やむをえずヨナを海に投げました。すると直ちに風波が静かになったしヨナは大きい魚にのまれました。ヨナが魚の腹の中で三日日夜を悔い改めて感謝と信仰の告白と賛美を申し上げると神様が魚に命じてヨナを陸地に吐き出しました。ヨナにニヌウェを悔い改めさせる仕事をしなさいという神様の指示がまた臨みました。ヨナは初めて任務をまじめに遵行しました。ニヌウェの王と民は皆が悔い改めて神様の審判を免れるようになりました。ヨナが経験するようになった風波は神様が彼に指示した事を拒否して反対に行動するので経験するようになったのです。聖徒には共通の任務があります。礼拝と伝道と奉仕です。その事においてそれぞれ引き受けた分野があります。これは聖徒に与えられた義務であるのみならず光栄な特権です。このような義務と特権をなおざりにして任務の遂行を拒否すれば神様がこんな聖徒を振り返えるようにするために風波に会うようになさいます。このような風波に会えば聖徒の本分を遵行しなさいというメッセージに分かってすぐ悔い改めるのが適当な対応姿勢です。

二番目は、神様のお言葉のどおり行う中に起きる風波があります。

イエス様が五餅二魚の奇蹟を施した後弟子だけ先ず船に乗ってガリラヤ海を渡らせました。日が暗くなってまっ暗なのに急に荒い風波が押しかけました。

弟子の心に恐れがだしぬけに襲撃しました。その時イエス様が海の上で弟子にいらっしゃいました。弟子がこれを見て驚いて幽霊だと大声を出しました。イエス様が弟子を向けて“安心しなさい私だから恐ろしくてない。”としました。ペテロが言うのを“主よ、もしイエス様なら私を水の上で神様に来なさいと言いつけてください。”としました。イエス様がペテロに“来なさい。”しました。ペテロが水の上で歩き始めている途中に風波を見て恐ろしがるので水の中に落ちて入りました。ペテロの助けの要請をきいてイエス様が直ちに手を突き出してペテロをつかまえました。そして一緒に船に上がった風が静まりました。船にあった弟子がイエス様に伏せてお辞儀をして“真実に神様の子です。”と言いました。弟子はイエスキリストがおっしゃるどおり行っていたが予想する事が出来ない風波に会いました。こんな風波は弟子の信仰を鍛えるための風波でした。神様のお言葉どおり生きて行く中にも風波はあります。しかし恐れるまでもないです。神様がこれをすべて分かっていらっしゃって適切な時にいらっしゃって手伝ってくれます。予想する事が出来ない風波のような問題と困境に処する時に私たちはこれを信仰を進める鍛錬の機会にしなければなりません。状況や自分の感じより神様のお言葉を固くつかんで進む信仰を立て通す訓練の機会にするように願います。

三番目は、サタンの妨害による風波があります。

弟子だちがイエス様と一緒に船に乗ってガリラヤ湖を渡るうちに狂風が吹き荒んで来ました。波があふれて入って来て船が沈没直前に置かれるようになりました。弟子は眠るイエス様を起こして“主よ、主よ、私たちが死ぬようになりました。”と叫びました。イエスキリストが睡眠を覚まして起きて弟子に“どんな理由でこんなに恐ろしがるのかあなたがたがどうして信仰がないのか?”なさって風と海に向けて“「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになった。”叱ったら直ちに風が止んで海がとても穏かになりました。弟子が神様とお供することにも風波が起きました。こんな風波は神様を信じて仕える事を妨げようと暴れ狂うサタンの介入で起きる風波です。弟子とともに船に乗った神様が舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおぼれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。私たちが神様を仕えて暮すと言いながらも神様がいらっしゃったことを忘れてただ自分と私たちの仕事にさえ集中すれば神様はあっちの方へいらっしゃって眠ります。他に言って神様がいらっしゃらないことのような状態になります。こういう時に悪魔が乗じて妨げます。サタンの妨害によって起きる風波を防止しようとするなら神様と緊密で持続的な交わりをしなければなりません。悪魔の妨害で風波が起きたら信仰ない人のように行動するのではなく風波に向けて“「静まれ、黙れ」”このように言い付けてください。

四番目は、クリスチャンの真の姿を人々に現わさせる風波があります。

使徒パウロが裁判を受けるためにローマに行くようになりました。百卒長ユルリオがパウロと他の罪囚の何人を護送しました。

彼らの乗った船はクレデ島の南端に位置した美港に停泊しました。大多数の人々は美港の上側にあるフェニックス港に行って冬を過ごすこと願ったが使徒パウロがこれを引き止めました。これは聖霊様の教えを受けて言う忠告でした。百卒長はパウロの言葉より船長と船主の言葉をもっと信じて出港を承諾しました。しかし間もなくユラグロという狂風に会いました。その船には船員と商人と軍人と旅行客そして罪囚まで皆が276人の人々が乗っていました。暴風が続いて日と星が見えないうちに滲む地中海を漂流しました。すべての人々が恐怖と絶望に震える日が続きました。この時パウロが彼らの中に立って叫びました。

“だが、この際、お勧めする。元気を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとくあなたに賜わっている』。だから、皆さん、元気を出しなさい。万事はわたしに告げられたとおりに成って行くと、わたしは、神かけて信じている。われわれは、どこかの島に打ちあげられるに相違ない”（使徒行伝、27:22～26）パウロの予告どおり船がメルリデ島の近くに至ったし船に乗った人々皆が島に上陸しました。彼らのために土人が火を焚いてくれました。パウロが木の枝を火に投げようと思う時に毒蛇がパウロの手を噛みました。土人はパウロが直ちに死ぬことで分かったがどんな以上がないことを見て驚きました。これを見た人々が病んでいるポプリオの父親にパウロを連れて行きました。ポプリオの父が赤痢をわずらい、高熱で床についていた父親だけではなく病んだ人々が来て治すことを受けました。そしてその島を発つまで三か月の間はメリデ島で復興盛会の期間になりました。島人はパウロとパウロによって救出された人々に手厚く礼を取り揃えて接待したし彼らが立ち去る時に必要なものなどを船に積んでくれました。パウロが経験するようになったこんな風波は神様の光栄を現わしてクリスチャンの実際を現わす役目をしました。私たちがこの世を渡る間に経験する風波が有害なことだけではないです。その風波の性格と原因を分別してこれを正しく対処して行くだけで災いが転じて福となって有益な結果を成すようになります。

神様が任せた仕事を拒否するとか忌避する事によって風波に会った人は徹底的に悔い改めて聖徒の本分と使命に充実しなければなりません。信仰を鍛えようと神様がお許し願えた風波に会った人は状況や感じに振らないで神様のお言葉を固くつかまえて進まなければなりません。サタンの妨害で起きる風波に会った人は神様の助けを求める一方風波に向けて“「静まれ、黙れ」”と言い付けなければなりません。そして聖徒としての本分をつくしながら生きて行くうちに風波が起きたら神様の光栄を現わして聖徒の真の姿を現わすきっかけにしなければなりません。聖徒の皆さんはどんな種類の風波に会おうかこれを正しく対応して災い転じて福にならせて有益な結果を導き出すように願います。